



兵庫県青少年本部 設立 45 周年記念特集

青少年 ひょうご No.84

編集・発行

公益財団法人 兵庫県青少年本部
〒650-0011
神戸市中央区下山手通 4-16-3 兵庫県民会館 8 階
TEL 078-891-7410 FAX 078-891-7418
HP <http://www.seishonen.or.jp/>



CONTENTS

- P 2 ★兵庫県青少年本部設立 45 周年記念特集★
 - ・寄稿
 - ・兵庫県青少年本部 45 年のあゆみ
- P 4 ・記念座談会「今、期待される若者」
- P 10 ・主要事業の成果
- P 12 ・県立神出学園 創立 20 周年記念式典開催
～ information ～
賛助会員募集

兵庫県青少年本部理事長 大西 孝

青少年本部が昭和 43 年に設立されて以来、このたび 45 周年を迎えることになりました。この間、行政や青少年団体の皆様等と手を携えながら、青少年育成県民運動を始め、指導者養成や団体活動の促進等、その時々ニーズをふまえながら青少年健全育成の取り組みをすすめてきました。これも、ひとえに多くの皆さまのご支援とご協力のたまものと厚くお礼申し上げます。

今日、少子化、情報化、地域社会の結びつきの希薄化等環境が大きく変わり、これに伴って、子どもを取り巻く課題も児童虐待、いじめ、有害情報の氾濫やインターネット携帯等の不適切な利用など多様化、困難化してきています。

こうした中で、未来を担う子どもたちを健やかに育てていくことの重大性を改めて、ひとりひとりの県民が認識して、学校、地域や家庭が一体となって、健全育成にとり組んでいかねばなりません。

青少年本部としても、県民の願いと決意が託された青少年憲章の推進母体として、青少年の今日的な課題を踏まえた自己の使命と役割を再認識し、積極的に活動していく決意ですので、皆様の一層のご支援ご協力をお願いします。

「ひょうご青少年憲章」

いま、私たちは暮らしや社会のあり方が大きく移り変わる転換の時代にありますが、先の阪神・淡路大震災は、人と社会に何が必要なかを改めて教えてくれました。

私たちは、これまでの自分の生き方を省みて人間生活の基本に立ち返り、自らを尊ぶと同時に、家庭や地域や国、そしてかけがえのない地球に生きる人間として、ひょうごの明日を担う青少年とともに、自信と夢と勇気をもって 21 世紀を築いていくことを誓い、この憲章を定めます。

- 1 自分を大切に、自らを律し、行いに責任をもって生きていこう
- 2 ふれあいを深め、正義感をもち、社会を担う一人として生きていこう
- 3 人の痛みや喜びを感じあえる心をもって生きていこう
- 4 多様な人々の存在を受け入れ、ともに支えあって生きていこう
- 5 自然を愛し、生命を尊び、みえない世界にも襟を正して生きていこう
- 6 先人に学び、明日に夢をえがき、勇気をもって未来を拓いていこう

(平成 12 年 3 月 15 日制定)

～兵庫県青少年本部設立45周年記念特集～



兵庫県知事

井戸敏三

「45周年に寄せて」

兵庫県青少年本部が設立45周年を迎えられました。心からお喜びします。

昭和43年の設立以来、青少年の現状に真摯に向き合い、青少年を守り育てる活動やリーダーの育成、さらには先駆的な体験活動を展開されるなど、青少年の健やかな成長を支えてこられました。長年にわたる皆様のご尽力に深く感謝と敬意を表します。

今、青少年を取り巻く環境は刻々と変化しています。とりわけスマートフォンなどインターネットの急速な普及や、フェイスブックといったSNSの広がり、コミュニケーションのあり方を大きく変えようとしています。少子高齢化や核家族化とも相まって、人間関係の希薄化や地域コミュニティ機能の低下が懸念されています。

こうした時代だからこそ、自然の中で仲間とともに活動する、学校や地域の課題解決のために自ら行動し汗をかく、といった体験活動がますます重要になっています。自分で考え、自分で行動する。いつの時代にあっても、若者の勇気と行動力こそが時代を切り拓いてきたのです。

それだけに、青少年の健やかな成長を願い、青少年団体と連携しながら、さまざまな体験プログラムを展開されている青少年本部には、大きな期待を寄せています。

平成21年からは、公益財団法人として、青少年育成に意欲ある企業や団体と青少年活動をつなぐ取り組みもスタートしています。「ひょうご子ども・若者応援団」や「ひょうご青少年社会貢献活動認定制度」など、地域が一体となって青少年を応援する新しい取り組みが広がっています。本当に心強いことです。

これからも、「ひょうご青少年憲章」のもと、ともに力をあわせ、安全で元気なふるさと兵庫の未来を担う、たくましい青少年を育てていきましょう。

兵庫県青少年本部顧問 今井 鎮雄



「45周年を迎えて」

私たちの歴史をいつから刻めばよいのでしょうか。戦後68年といわれますが、この間、歴史は私たちの気がつかないうちに大きな変化を社会にもたらし、展開してまいりました。社会の変化、それにとともなう思想の変化が幾度も見られ、そのたびに私たちは少なからぬ戸惑いを覚ええました。

高齢社会といわれる現代は、子どもや青少年の人口が減少しつつあります。昭和43年の設立以来、みなで大事に守り育ててきた兵庫県青少年本部は、新たな時代における青少年の課題に応答するため、再び準備をしなければなりません。本部設立45周年を、青少年にとっていま何が大切かという課題を深く掘り下げ、社会へ訴える好機と捉えていただきたいと思います。

兵庫県青少年本部顧問 栗原 高志



「絶えざる前進を願って」

兵庫県青少年本部が設立45周年を迎え、未来へ向かってさらなる充実、発展へと繋いでもらいたいと願っています。理事長に就任した年が丁度40周年にあったこともあり、記念事業の1つとして公益財団法人化に踏み切ることになりました。県下578法人の先陣を切る第1号となったお蔭で、職員の士気は大いに上がり、他法人等からも注目を集めました。寄付金への税控除制度を活かそうと設立した「ひょうご子ども・若者応援団」。当初寄付金集めには苦労しましたが、その後理解が広がり、今では年間600万円余を青少年活動に助成し、また400余件の物資等を企業等と青少年団体間に橋渡しするまでに成長しています。ほんの小さな試みが、その後の工夫と努力次第で大きな成果を生んだ一例かも知れません。

青少年本部は、県施策の実施機関として重要な任務を持っていますが、一方県では手の届きにくい、或いは十分ではない部分、分野を補完していくことも大切な役割だと思います。青少年団体や若者たちがいま何を求めているかを絶えず考え、模索し、実現に努力して行く…青少年本部の今後の活動に期待しています。

◆兵庫県青少年本部45年の歩み◆

次代のひょうごを創る原動力は青少年であり、青少年の育成には、家庭、学校、社会すべての県民がそれぞれの役割を自覚し、力を合わせ一体となった運動が何よりも望まれます。

兵庫県青少年本部は、広く県民の創意を結集し、青少年育成にかかる民間団体と行政機関が連帯して青少年の育成活動を推進するため昭和43年に設立されました。

- 昭和42年(1967) 青少年育成兵庫県民会議を設立
- 昭和43年(1968) 兵庫県青少年本部(任意団体)を設立
- 昭和46年(1971) 兵庫県青年洋上大学を開設
- 昭和47年(1972) 兵庫県・沖縄県友愛運動(親善野外活動)を実施
- 昭和52年(1977) 地方青少年本部を設置(6県民局)
- 昭和58年(1983) 兵庫県青少年憲章を制定



北播磨青少年本部本部長 小林 勝弘

「45周年を迎えて」

兵庫県青少年本部が設立されてから45年の歳月が経過したことは、関係者のひとりとして誠に喜ばしい限りです。私自身、昭和52年の地方青少年本部設立と同時に東播磨青少年本部副本部長に就任し、その後本部長を歴任、平成13年の県民局再編後は北播磨青少年本部長として、36年余の長きにわたり地方青少年本部の活動に深く関わってまいりました。その間、時代や社会の変化は著しく、生命に関わる児童虐待や携帯電話を使ったいじめ等の問題に見られるように、個人主義の浸透や人間関係の希薄化が形を変えて社会問題として顕在化しています。我々が子どもの時には、自然の中で大勢の子どもたちと群れ遊びながら人間関係の大切さを学び、おのずと「生きる力」を身につけてきました。屋外で自由に元気はつらつと遊び回れる社会環境を取り戻すことが何よりも大切ではないかと思えます。今後も、未来を担う青少年の健全育成に息長く取り組んでいく必要があります。力を合わせて、共に取り組んでまいりましょう。



こころ豊かな人づくり 500人委員神戸OB会
前会長 杉尾 須美子

「生の声の力」

“スマホ” “ガラケイ” この小さな薄っぺらな器具での会話？会話ではないのです。温度がない。熱い血の流れがない。皆の視線を追うと、一様に下を向いています。お互いの表情を見ない。この様子は若者だけでなく、大人の層にも浸透しています。これは人間＝人と人なのではないか？ロボット集団なのかとゾッとします。青少年本部設立の頃は「いじめ」などはありましたが、まだまだ異年齢の者との交流もありました。以後、ひきこもり・不登校と集団に馴染めない状況が増えてきました。そこへ先に述べた下向き生活。いつ相手の顔を視、声を聴き、温かい体温に触れるのでしょうか。そうは言っても、阪神・淡路大震災以降さまざまな自然の試練に大人達が打ち拉がれている時に、若者達は本当に力強く立ち上がってくれました。〇〇族や不登校だと言われていた彼らが、本来の人としての想いを心から発して、出来る事、更にその一歩上の活動を難なくこなしてくれました。この様な真の力を持った若者達が「生の声の力」を出して、行動できる“場づくり”を彼らと共に大人達が築き上げる事が大切だと思います。それも早急に！！その足掛かりの場づくりを「500人委員」が担わなければならないでしょう。



兵庫県青少年団体連絡協議会
会長 速水 順一郎

「45周年を迎えて」

公益財団法人兵庫県青少年本部45周年おめでとうございます。45年前はアポロ11号が月面に着陸した年です。また、団塊の世代が学生運動に熱い思いを傾けた年でもありました。翌年には大阪万国博覧会が開催され、青少年も将来への夢が大きく広がっていました。45年たった今、社会は急激に変化し、都市化・過疎化、少子・高齢化社会、情報化社会等青少年を取り巻く環境も大きく変わってきました。このような時代に、兵庫県青少年本部は子どもと視線を合わせ、青年と一体となって事業を進める一方、社会に対する提言を行い、青少年の健全な成長に向けて取り組み続けてこられました。これからも青少年の視点に立った活動の推進を宜しくお願い致します。



特定非営利活動法人こうべユースネット
常務理事兼事務局長 辻 幸志

「若者ゆうゆう広場」居場所づくりのこれから～人と人とのつながりから生まれる自己形成の場～

兵庫県青少年本部設立45周年にあたり心よりお祝い申し上げます。その長年の青少年育成活動に取り組まれてきた中で、平成15年に県内10箇所からはじめ、現在では40を超える「ゆうゆう広場」の活動も、今年10年の節目の年にあたります。初年度から「ゆうゆう広場」活動に参画し、青少年と共に居場所とは？を常に意識し考え、現在も活動を行っています。広場活動の着実な増加と併せて、その存在を多くの方々知って頂き、その成果として「青少年の居場所づくり」の活動が10年前と比べれば、認知されてきたことを強く感じます。

これからの広場活動で大切なことは、必要とされる機能をしっかりと認識し、青少年のニーズをひろい主体的な関わりから生まれる居場所づくりと青少年の自己形成に必要な社会的親・兄弟の存在となる多くの人材の育成と思えます。『第3の居場所で第3の大人との関わりが次代を担う心豊かな青少年の育成となる』そのような活動を意識し、より強い横のつながりを持ち、県内関係者の皆さんで取り組みませんか。

- 昭和 60年(1985) 財団法人兵庫県青少年本部を設立(兵庫県青少年本部と青少年育成兵庫県民会議を統合)
- (国際青年年) 兵庫県立母と子の島(平成19年から「いえしま自然体験センター」に改称)を管理運営(平成24年3月まで)
- 兵庫県立東はりま青少年館を管理運営(平成20年3月まで)
- 兵庫県立西はりま青少年館を管理運営(平成9年3月まで)
- 兵庫県立宍和野高原野外教育センターを管理運営(平成22年3月まで)
- 平成 元年(1989) こころ豊かな人づくり500人委員会の設置
- 平成 2年(1990) ふるさと青年協力隊の派遣(平成22年3月まで)
- 平成 6年(1994) 兵庫県立神出学園を管理運営
- 兵庫県立木の殿堂の管理運営(平成22年3月まで)
- 平成 8年(1996) 兵庫県立山の学校を管理運営
- 平成12年(2000) ひょうご青少年憲章の制定(兵庫県青少年憲章を改訂)
- 平成13年(2001) 県民局再編に伴い9地方青少年本部及び神戸事務部を設置
- 平成18年(2006) ひょうご出会いサポートセンターを開設
- 平成21年(2009) 公益財団法人へ移行(県下第1号)

～兵庫県青少年本部設立45周年記念座談会～

兵庫県青少年本部の設立45周年を記念して、青少年活動や地域活動に携わっている青年リーダーの皆さんにご出席いただき、「今、期待される若者」をテーマに、青少年活動の現状や課題、課題解決に向けて若者世代に期待される役割などについて、大西理事長と忌憚なく語り合っていました。



○**司会（速水）** 兵庫県青少年団体連絡協議会が、昨年度、20代から60代の成人を対象に、子どもの頃の体験が大人になったときにどのような影響を与えているかという調査をしました。その結果、地域とのふれあいや異年齢集団での遊びの経験がある人ほどコミュニケーション能力が高く、将来の生き方についても影響を受けているということがわかりました。また、家庭や地域で役割がある子どもたちほど、責任感とか規範意識の高揚に繋がる傾向にあり、他人と揉まれることで社会性が身につけていました。さらに、近所の友達と遊んだことが、協調性を養うことに繋がったり、工夫する力が身についたりしたとの結果も出ました。今後、日本の人口は、少子高齢化に伴いピラミッド型から釣り鐘型の逆三角形になります。経済面をはじめ社会全体を少ない若者世代が支えていかなければならない。ところが、若者世代を支援する施策が県や市には少ないのが現状です。また、若者世代はスマートフォンやパソコンなどの操作能力が高く習熟している一方で、コミュニケーション能力が非常に低下している傾向が顕著になっています。本日は、そうした青少年を取り巻く現状や課題を踏まえながら、日頃の活動を通じて感じていることなどを、青少年活動に参加している一人として、また、若者の一人として、意見を伺いたいです。まず、自己紹介を兼ねて日頃取り組んでいる活動内容、そして、今の社会について思っていることをお話いただけますか。

社会に対する思いは？！



○**堀井** 小学校2年生からボーイスカウトに所属し活動しています。大学生になってからは指導者として、9月まではボーイ隊で中学生を指導し、週末に山に登ったりキャンプをしたり、春休みや夏休みには6泊や10泊といった少し長めのキャンプを指導してきました。今年の9月からは、ベンチャー隊といって高校生を指導してい

ます。今の社会に対する思いとしては、例えば「キャンプ中に川の水を飲んで駄目」と言うと、今の子どもたちは熱中症になりかけているのに飲まない。自分で判断できない。自ら考え、行動できるよう活動を通じて学んで貰いたいと思っています。

○**司会** 何故そうなったと思いますか。

○**堀井** 子どもたちの母親を見てみると、何でもしてあげている。失敗の一つでもしたら学ぶのに、経験値が低い。子どもに対する親のあるべき姿勢が問題ではと考えますね。

○**司会** 確かに、今の子どもたちは砂遊びが好きなのに不潔だから遊ばせない親が多いといった話をよく聞きますね。長谷川さんはいかがですか。

○**長谷川** 学生ボランティアとしてOAA活動に参加しています。OAA(野外活動協会)は野外活動を中心に活動している団体で、その学生リーダーとして、毎週土曜日にミーティングを行い、主にキャンプの企画や運営に携わっています。夏に大きなキャンプが2つ、それ以外にも月に1回程度、小学生やファミリーを対象としたキャンプがあり、その運営のお手伝いをしています。社会に対する思いですが、今大学3年生なので、就活分野に興味を抱いています。

○**司会** 親子キャンプをやっていて、堀井さんの話にあったような親の姿勢を感じたことはありますか。

○**長谷川** OAAの活動では、親が子どもに構い過ぎているとは特に感じていません。また、私は小学生の場合、キャンプの夜にお母さんがいないと眠れないとか、子どもが親に甘えるのは自然と思っています。

○**司会** 菅野さんはいかがですか。



OAA キッズキャンプでの活動風景



○出席者

堀井 滉之さん 日本ボーイスカウト兵庫連盟西宮第3団
 長谷川 紫央利さん OAA学生ボランティア
 菅野 将志さん NPO法人生涯学習サポート兵庫
 大西 孝 兵庫県青少年本部理事長
 速水 順一郎さん 兵庫県青少年団体連絡協議会会長
 コーディネーター（司会）

○菅野 私は、NPO法人生涯学習サポート兵庫のスタッフとして活動しており、35歳になります。高校・大学と地元加西市のボランティア団体「加西ジュニアリーダークラブ」に所属し活動してきました。それから、加西市青年連絡会で青年活動の企画や運営に携わり、東・北播磨青少年本部が主催する青少年交流サロン「まほろば」でも青少年活動に関わってきました。地元での就職を希望し、JAに勤めましたが、組合員一人ひとりと関わる中でまちづくりの魅力に惹かれて退職。兵庫教育大学大学院に入学し、2年間「まちづくり」をテーマに研究を行い、卒業後に今のNPO法人に就職しました。今は、子育て支援や高齢者生きがいがづくり、東日本大震災を契機に災害支援活動にも携わっており、幼児から高齢者までを対象に地域を切り口とした実践活動を行っています。特に「ワカモノヂカラプロジェクト」という災害支援活動に力を入れており、災害時に学生が支援できる仕組みづくりをしながら、青年層の活性化のための取り組みをしています。

社会に対する思いは、今の社会問題に関して核家族化に大きな要因があると思っています。2世代、3世代で暮らせる地域づくり、祖父母と一緒に子育てをし、地域の大人がそれを見守る、そういった地域と関われる仕組みを築き上げていく必要があると感じています。親に関してはまさしく同じ思いで、親が子どもに構い過ぎですね。

○司会 最近の町営住宅では、町外からではなく町内に住む若夫婦が借りるという、地方でも核家族の様相を呈していると聞きます。しがらみが少ない方が面倒くさくなくて良いといった風潮があるようですね。



ひょうごっ子・ふるさと塾 佐用町商工会青年部

それでは、理事長には、青少年本部のこれまでの取り組みや青少年施策の現状について、お願いします。

○理事長 県民全てが青少年の育成を支援するための会議として、昭和42年に「青少年育成兵庫県民会議」が設立され、それを受けて、県民総ぐるみの青少年育成活動を展開する組織として昭和43年に兵庫県青少年本部が発足しました。その後、昭和60年にはこの県民会議と統合し財団法人化されましたが、以来、青少年の育成指針である「兵庫県青少年憲章（平成12年～ひょうご青少年憲章）」のもと、青少年育成に関わるあらゆる施策や県民運動、活動の取り組みを進めてきました。現在は、5つの柱立てのもとに取り組んでいます。一つには、「ひょうご青少年憲章」の普及・啓発をはじめとした青少年育成県民運動を進めています。二つには、皆さん方のように地域で活躍する青年リーダーを養成しようと、この秋にベトナムを訪問した「青年洋上大学海外養成塾」や、「兵庫・沖縄友愛キャンプ」などを実施しています。三つには、課題を抱える青少年、最近では、ひきこもりや不登校、いじめなどが大きな社会問題となっていますが、そうした青少年の社会的自立を支援する「県立神出学園」や「山の学校」を運営しているほか、電話相談などにも取り組んでいます。四つには、体験活動ですね。子どもたちに身近な地域で自然体験や社会体験の機会を提供して、様々な体験を通じてふるさとへの愛着を深めてもらう「ひょうごっ子・ふるさと塾」などの取り組みを進めています。最後に、少子化の大きな要因の一つである晩婚化や未婚化に対応しようと「ひょうご出会いサポートセンター出会い支援事業」として、お見合い紹介や出会いイベントなど、男女の出会いや結婚支援にも取り組んでいます。

皆さんの話をお聞きして、今の若者は決められたことはきっちりやれるが、創意工夫や自分が責任を持って行動する点では弱くなっているのではと感じました。それから、菅野さんが言われた核家族化ですが、最近



～兵庫県青少年本部設立45周年記念座談会～

ではひとり親家庭も増加してきており、それこそ地域ぐるみで子育て家庭を支える必要性が一層高まってきているようにも感じています。

活動や自身の自慢は！

○**司会** それでは、次に、自分たちの活動で自慢できることと、自分自身を売り込むとしたらどのようにするか、自身の自慢話も合わせて、菅野さんからお願いします。



○**菅野** 先に自慢話をすると、35歳にもなって、自分の好きな“遊び”を仕事にまでして、家庭を持ちながら続けているところは、他人に自慢できることです。特に、若者世代が地域に積極的に関わろうとすると、依然として周囲から珍しがられることが多く、個人的には自慢できる、社会的に認めてもらえる活動になればと思っています。後は、東日本大震災以降、災害支援活動として「ワカモノヂカラプロジェクト」を指導しており、被災地向けのボランティアバスに300人を超える大学生等が乗ってくれました。日本国中の人々が募金をはじめ何らかの支援をされたと思います。東北支援に行った若者の力は凄いものがあります。その中の一握りではありますが、ボランティア活動を初めてする学生も多かったですが、関西・兵庫からの支援活動を続けています。先ほど就活の話が出ましたが、大学での学業や就活、アルバイトや恋愛など、それらと並行して青年活動をしている彼らを自慢したいです。

○**司会** それでは、堀井さんはいかがですか。

○**堀井** 僕の自慢は、毎夏、必ず10泊のキャンプ、といっても単なるキャンプではなくサバイバル体験に近いキャンプですね、それをずっと指導してきたことです。山に子どもたちを連れて行って、テントとか炊事用の鍋とかを渡して、トイレもシャワーもなく、ご飯も全て自分たちでつくって、夜が来ればテントを張ってと、何事も自分たちで行う体験です。10泊でこんなに変わるのかというくらい子どもたちが変わりますね。目の色が違ってきます。そういうクオリティの高いキャンプを企画・運営してきたということが自慢であり、就活の際には、他の学生と比較して「即戦力になります」と言いたいですね。

○**司会** 私も8年くらい前に、堀井さんと同じように高校生を集めて2週間のキャンプを行ったことがあります。最初の3日間は、何をしたらよいかわからず、

話し合いばかりしていましたが、やることが決まるとそこから動き始め、随分と力がつきました。続いて、長谷川さんはいかがですか。

○**長谷川** 今メンバーが14名いますが、少ないながらも全員が毎回ミーティングに出席し、凄くアットホームな雰囲気です。コミュニケーション能力を高めたいとの思いで来ている学生も多く、最初は皆よそよそしいのですが、毎週話し合っていく中で、本音で話せる仲になります。実際、キャンプの運営でも、お互いにかばい合い一体感を感じながら活動しています。キャンプもアットホームな雰囲気なので、小学生の時に参加していた子どもたちが中学生・高校生になって手伝いに来たり、大学生になって学生リーダーとして参加する人もいます。一人ひとりのキャンプに対する思い入れが強いというか、温かいところが自慢ですね。辛いことがあった時には相談に乗って貰えるし、県外に就職したOBも帰郷した時には毎回連絡をくれます。私自身の自慢は、ネガティブな性格ですが、感受性が豊かなところ。良きにつけ悪きにつけ喜怒哀楽がすぐに表情に出てしまい、友達には泡立て器みたいと言われていました。掻き回すだけ掻き回して、それでも、最終的には綺麗にまとまり、みんなを一つにすることができます。

○**司会** メンバーのつながりが強いんですね。例えば、春に新入生が入っても一緒になって活動できますか。

○**長谷川** これまでの伝統として、必ず上の回生が下の回生の面倒を見ます。上下関係とかではなく、上の回生が温かく見守ってくれますので、好きなことが言えるしできるみたいな感じです。

○**司会** それはいい展開ですね。10年選手がいたら新人が入ったときは関係性を築くのが難しいのが一般的です。

皆さんには活動の自慢と、自身の自慢話をしてもらいましたが、理事長は、青年時代を振り返っていかがですか。

○**理事長** 正直に言って、私は野外活動リーダーの経験はありません。私が子どもの頃は、街中であつても野原などもあつたし、放課後は友達と一緒につねに野山や池に遊びに行ったりしてましたので、あえて野外活動をする必要がなかったですね。皆さんの話を



ワカモノヂカラプロジェクトによる災害支援活動

聞きして、とてもしっかりと実践活動をされており心強く思いました。これから皆さんが社会や地域の中核になられた時には、当然課題が山積しているでしょうが、結構、明るい社会になるのではと感じました。

○**司会** 先ほど菅野さんが、震災ボランティアを初めて経験した若者が多かったと言われましたが、気持ちがあってもやり方がわからない若者も少なくないのでしょうか。

○**理事長** ボランティア活動の経験を活かして地域活動に繋げて欲しいですね。ボランティアとして、相手に寄り添い支えることは大切で社会的に意義があることですが、ボランティアに参加すること自体が、本人にとって有形、無形を問わずその人の成長や学びに繋がりが、意義があると思います。青少年にはどんどんやって貰いたいと思います。

○**司会** 長谷川さんは、本部事業の「ひょうご青少年社会貢献活動認定制度」の取り組みに参加されたそうですが、この制度をポスターで知った、それとも誰かの誘いを受けましたか。

○**長谷川** 大学の授業でチラシが配られ知りました。

○**司会** 授業でチラシが配られたとのことですが、それを見てどのように感じましたか。

○**長谷川** 野外活動が好きなので参加しましたが、社会貢献事業との認識はなかったですね。東日本大震災の支援活動で東北に行き、はじめて社会貢献活動と認識しました。

○**司会** 皆さんには、自己紹介に始まり、活動や自身の自慢について話していただきましたが、最近の子どもたちと話をすると、子どもたちは自慢しないですね。

○**理事長** 昔は自慢できることが一杯ありましたね。勉強はあまりできないけれども、運動が得意とか、絵が得意とか。それをみんなが評価していた。今は評価のパターンが画一化されてきているように思います。それぞれの良さを認め合っていくことが大事ですね。

“期待される若者”になるためには？！

○**司会** 最近、子どもが泣きわめいているのに知らん



ボーイスカウト 第16回日本ジャンボリーでの様子

顔をしている、また、高齢者夫婦の顔をしばらく見ていないと思ったら亡くなっていったことが、身近な生活の場で増えてきており、地域のつながりというか、人と人との絆が薄れてきたように感じます。我々の世代も考えていく必要がありますが、皆さんのような若い世代が中心となって、地域社会を変えていくって貰いたいとの期待があります。そのためにはどうしたらよいと思いますか。

○**長谷川** 私の経験から言えば、何か失敗をすればよいと思います。私が代表を務めている活動で、3月に東日本大震災の追悼セレモニーをすることになり、直前になって連絡ミスに気づきあたふたしてしまったの



ですが、OAAとかバイトの仲間が手伝ってくれて何とか終わることができました。普段は意識していない人のつながりとか、コミュニケーションの大切さとか、凄く多くのことを学びました。

○**司会** 失敗経験はした方がよいとは思いますが。堀井さんはいかがですか。

○**堀井** 例えば、電話がかかってきて出ることができない場合、一般的にはかけ直しますよね。僕もスカウトの子どもたちに連絡したりしますが、入隊したての子どもは電話してもかけ直さないですね。そうした一つひとつのことに、些細なことであっても誠実に対応することが、一人の人間として期待されるためには必要ではないかと思えます。

○**司会** 例えば、10泊のキャンプを経験した子どもたちは、当たり前電話をかけることができるようになりますか。

○**堀井** 個人差がありますが、半分くらいはできるようになります。活動期間が空いたり、活動に関わる時間が少なくなると自己中心的に振舞いがちですね。組織や集団と関わらないと、どうしても自己中心的になってしまう。

○**司会** ボーイスカウトもそうですが、集団との関わりを持つ機会をつくっていく必要がありますね。人ともまれることでわかることも多い。菅野さんはいかがですか。

○**菅野** 僕はまちづくりとか地域という言葉が好きでよく使うのですが、地域に関わらないのは、地域の一員としての自覚がないか、地域社会との兼ね合いに対して当事者意識がないからではと思っています。昔の地域社会はつながりが強く、地域の大人が子どもたちを見守っていたし、小学校では子ども会という組織がありました。中学生・高校生あたりから部活や塾が忙しかつたりして地域から離れ、20代後半、30代くらいまで離れてしまう。この15年間で地域から離れる

～兵庫県青少年本部設立45周年記念座談会～

年代で、大学や就職で外に出て行ってしまふ。僕の場合は、高校生の時に「加西ジュニアリーダークラブ」に参加したことが地域とつながるきっかけになったので、地域の課題に対して何かしたいなと思っています。その意味合いからも、中学・高校年代から子育てが始まるまでの間に地域とかかわれる機会があれば、地域の一員とか、社会の担い手とか意識するようになるのではないかと思います。

○**理事長** 菅野さんが言われたように、今の子どもたちは、中学生、高校生になると勉強、部活、塾などで忙しく、なかなか地域行事に参加する時間が無いのが現状です。県で進めてきた施策に県民交流広場がありますが、そこでは、地域の人が集い、子ども・若者の居場所づくりや交流イベントの開催など、各地域の特性や実情に応じた多彩な取り組みが展開されています。身近な生活の場での人と人とのつながりは何ものにも代え難い財産であり、元気で安心な生活を営む基盤になります。有り難いことに、地域には、500人委員の皆様もそうですが、コミュニティづくりや地域活動をしたいと思っている人も多く、そういう人たちとのネットワークの輪を拡げていければとの思いはあります。

同世代に伝えたいメッセージとは！

○**司会** 最後に、同世代の人たちに伝えたいメッセージがあればお願いします。

○**堀井** 一つの考え方として、その善し悪しは別にして、大学生は4年間という時間をお金で買っていると云えます。その間、自分の将来や周囲のことを考えつつ過ごすのか、ただ楽しみさえすればいいのかと考えると、僕は、スカウト活動とか続けながら、周囲のこととか、自分の将来を考えつつ生活したほうが絶対に良いと思っています。それが学生の一つの義務だと思うので、大学は遊ぶところみたいな風潮があるのはいかなものかと。少くから何か活動をしてみたら良いのではと思います。



○**司会** 確かに、今は大学へ入学した時点でゴールした気持ちになる学生が多い。中学から高校、高校から大学へと受験を乗り越えて、まだ就職があるけれども、学校へ行くという部分では大学が最後になる。それだけにゴールしたみたいに勘違いしてしまう。今、言われたように、自分の将来をじっくり考えたり、周りを見て自分ができることを探せばいいというメッセージは大事ですね。長谷川さんは、いかがですか。

○**長谷川** 楽しく後悔しないで過ごせたらいいと思うのと、いろんな人と関われる場を自分でつくる。ボランティアでもいいし、バイトでもいいし、いろんな人と関わって、それを糧に成長して行って欲しいと思っています。

○**司会** 楽しく後悔せずに生きるのは凄く難しいことですが、いろんな人と関わることは大事ですね。菅野さんはいかがですか。

○**菅野** これまで、子どもや若者に関わる活動を続けてきて、良い面だけでなく辛い面もありました。誰もが青少年活動をしたらよいとも思わないし、自分の居場所というか、活躍できる場がいろいろあればいいのではないかと思いますね。学校であったり、バイトであったり、友達のサークルであったりと、いろんな経験の場を持つことが大事だと思います。反対に、青少年活動だけというのは、世界を狭めるというか、学生のうちだからこそ目の前にあることを一生懸命やって、そして、いろんな世界があればよりいいのかと思います。自分で選んだことをとことんやってみるということが大事かなと、そういう若者であって欲しいと思います。

もう一つは、地域活動は、自分の家族や自分に近い人たちの幸せが基本にあってこそその活動だと思っています。自分自身や家族の幸せがあってこそ、地域社会の幸せにつながると思っているの、そこを一番大切にして欲しいと、自分もそうしていきたいと思っています。

○**司会** 家族も何もかも犠牲にして一心不乱に取り組む特異な社会活動家がありますが、いろんなことを成し遂げる人はほんの一握りです。凡人は、自分たちの暮らしというか足元が安定していなければ、いろんなことをしようと思ってもできない。今、言われたことは大事ですね。理事長は今のお話を聞いていかがですか。

○**理事長** 私も菅野さんが最後に言われたことは、そのとおりだと思います。自分の生活スタイルに合わせてアクションを起こしていくことが、活動の継続とともに、他人も納得させることができると思います。地に足の着いた活動が何より大事です。それから、長谷川さんのお話を聞いていて、何にでもチャレンジし



県民交流広場 ゆうゆう小田北での交流イベント

ているところが若者らしく好感を覚えました。若者の特権は、失敗を恐れずにトライし試行錯誤しながらも学んでいけることだと思います。年代が上がると失敗してもよいというわけにはなかなかいかない。若いうちに経験できることは何であっても果敢にチャレンジして貰いたいですね。そして、堀井さんが言われた電話のかけ直しですか、社会人として当たり前のマナーであって、本人が気づくことが大事ですね。団体活動の中でもまれて、是非、常識とか社会性を培って貰いたいですね。

○**司会** 皆さんにいろいろお話を聞かせていただいたことをまとめると、ポイントが5つあります。

1点目は、「若者に対していろんなチャンスの機会をつくる」ことです。ボランティア活動や団体活動への参加でもよいし、アルバイトでいろんな人と触れ合うことも一つのチャンスですよ。青少年本部や青少年団体としては、若い人たちが何かやりたいと思ったときに、タイムリーに情報や機会、場が得られるような取り組みを進めていく必要がありますね。

2つ目は、「人のつながり、特に縦のつながり」です。異年齢による交流機会が少なくなっており、スカウト活動やOAA活動もそうですが、先輩が後輩を指導していくことで知識や技術が伝わっていきますね。また、双方にとってこれまでとは違ったものの見方や考え方に気づく良い機会になります。

3つ目は、「失敗経験をすること」です。何かする前にまず頭で考えて、予測して取り組むのを止めるのではなく、何事にもまずチャレンジして欲しいですね。上手くいけばそれでいいし、失敗とか困難を経験することが、非常に大事です。

4つ目は、「家族や地域とのつながりのあり方」です。核家族も大家族もそれぞれ良い面と悪い面がある。それよりも、家族や地域とのつながりの頻度というか強さが大事で、そのことにより役割意識や規範意識が高まっていくのではと思います。そのためには、旧来型

の隣近所に土足で上がるといったつながりではなく、洗練された付き合いができる新しい地域社会とのつながりの構築が大切ではないか思います。家族も同様で、言葉足らずでは伝わらないことも多く、今の時代は、コミュニケーションや交流を深める、協力し合うことが望ましいのではと感じています。

最後5つ目は、「団体活動に参加することが、いろんな経験ができる早道」です。既存の青少年団体等に関わることによって、役割体験ができるし、コミュニケーション能力を高めることもできる。そして、非日常の体験から、生きる力をはじめ人間形成の基盤となる資質・能力が身につく。団体活動にどんどん参加して、もちろん青少年本部事業にも参加しながら、様々な体験を積み重ねていくことによって、ものの見方とか考え方とかが変わってくると思います。

○**理事長** 一つ付け加えさせていただきますと、特に、地域とのつながりについては、若者が心の拠り所と言いますか、ふるさとの大切さ、素晴らしさを実感できる“ふるさと意識”を持てるような取り組みが、これから求められていると思いますし、そういった新しい地域づくりを進めていく必要がありますね。

○**司会** 皆さんには長時間にわたり、貴重なご意見をいただきありがとうございました。若い人たちには、本日の意見を参考にして、これからいろんなことにチャレンジして貰いたいと思います。



自然災害から「住まい」「家財」を守る
フェニックス共済 (概要)

区分	負担金	被害認定	給付金
住宅所有者	年額 5,000円	半壊以上	最高 600万円
マンション共用部分	年額 2,400円	半壊以上	最高 300万円
家財	年額 1,500円	半壊以上 又は 床上浸水	最高 50万円

※複数年一括支払加入(3・5・10年)による割引や住宅と家財の同時加入による割引があります。詳しくはお問い合わせください。

フェニックスサポーター はばタン

(公財)兵庫県住宅再建共済基金 フェニックス共済 | 検索

TEL 078-362-9400 (平日 9:00~17:00)

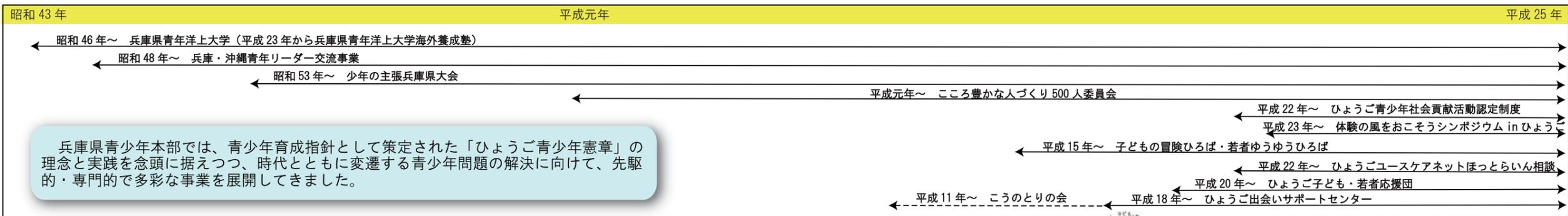
「兵庫県福祉手帳2014」ただ今発売中!

兵庫県福祉手帳 <2014年版> が現在発売中です。カレンダーのほか、県内の福祉関係機関一覧を掲載しており、福祉関係者必携の手帳です!
※兵庫県民間社会福祉事業職員互助会の加入者には、互助会より配布されますのでご注意ください。

社会福祉関係資料
兵庫県福祉手帳
2014

[サイズ]ヨコ9cm×タテ15cm [価格]945円(税込)

申込み・問合せ先 兵庫県社会福祉協議会 TEL 078-242-4633



兵庫県青少年本部では、青少年育成指針として策定された「ひょうご青少年憲章」の理念と実践を念頭に据えつつ、時代とともに変遷する青少年問題の解決に向けて、先駆的・専門的で多彩な事業を展開してきました。

兵庫県青年洋上大学 海外養成塾

「兵庫県青年洋上大学」は、本県と友好関係にあるアジア近隣諸国等を訪問し、現地青年との交流をはじめとする多彩な体験活動を通して、国際性を備えた青年リーダーとしての意識醸成を図るとともに、次代の兵庫を担う若い力、新しい力を育成することをめざし、昭和46年から34回にわたり実施しています。平成23年度からは、急速なグローバル化の進展に対応するため、「兵庫県青年洋上大学海外養成塾」と改称、内容を大幅にリニューアルして隔年実施しています。「兵庫県青年洋上大学」には、これまで1万人を超える青年が参加し、研修終了後は、地域・職域・団体の中核となって、広く地域社会に貢献しています。平成25年度はベトナムを訪問し、現地大学生との交流や日系企業訪問、歴史・平和学習などを通じて研鑽を積みましました。



こころ豊かな人づくり 500人委員育成事業

青少年の健全育成活動を通じた地域づくりを担うリーダーの育成を目的に、平成元年にスタート。2年間に渡って各種セミナー受講、実践活動等の研鑽を積み、地域活動のスキルを身につけた修了生は24年間で5千人を超え、それぞれの地域で活躍しています。平成25年度からは、第13期生452人の研修カリキュラムが始まりました。

ひょうご青少年社会貢献活動認定制度

社会の担い手として意識の高い青少年を育成するとともに、青少年団体・NPO等の活性化を図るため、高校生から概ね30歳代、青少年が参加した社会貢献活動を公的に認定する制度を平成23年度から本格実施。平成24年度実施調査では、約64%が就職活動でこの制度を活用したと回答しています。現在県下140社の企業に賛同いただいています。

年度	事業参加者数		修了者数
	事業数	参加者数	
22	6	28	27
23	9	160	58
24	21	136	53

兵庫・沖縄青年リーダー交流事業

昭和47年の沖縄本土復帰を契機に結ばれた兵庫・沖縄友愛提携に基づく沖縄県との交流事業の一つで、郷土の発展に寄与するリーダー養成を目的として実施しています。これまで4,000人を超える兵庫の青年が沖縄の青年と交流しており、夏は沖縄で海洋研修を、冬は兵庫でスキー研修を行うなど、両県の異なる歴史や文化の体験活動を通して友愛の絆を深めています。



少年の主張兵庫県大会

県内の中学生が日常生活の中での心からの思いや考え、感銘を受けたことなどを広く発表する機会を提供することにより、大人に中学生への理解を深めてもらうとともに、中学生世代への意識啓発をねらいとして昭和53年から開催。今年で35回目を迎えました。今年是全国で約56万人が参加（うち兵庫県約1.2万人）。全国大会に出場した松本優香（赤穂市立有年中学校）さんが独立行政法人国立青少年教育振興機構理事長賞に選ばれました。



ふるさとに根ざした「体験の風をおこそうシンポジウム in ひょうご」

近年、社会が豊かで便利になる中、ふるさと意識や子どもの自然・生活体験などが減少している状況を踏まえ、子どもの健やかな成長にとって、「ふるさと」や「体験」がいかに大切であるかを広く家庭や社会に伝えるため、平成23年度からシンポジウムを開催しています。また、平成25年度は、青少年団体連絡協議会とともに「子どもの頃の体験が大人になってどのように影響を受けるか」に関する調査を行い、「青少年フォーラム」を開催しました。

ひょうご子ども・若者応援団

次代を担う青少年の健やかな成長を地域ぐるみで支援するため、企業や社会奉仕団体等から提供される資金や物資等様々な資源を、青少年育成に取り組む民間団体・グループへ結びつける「ひょうご子ども・若者応援団」事業を平成20年度から推進しています。現在、243の企業等が加盟、また、367の青少年団体が登録しており、適宜、加盟企業から提供された資源を青少年団体等の事業に提供しています。また、提供された資金をもとに、東日本大震災復興支援特別助成をはじめ各種の助成事業を行っています。

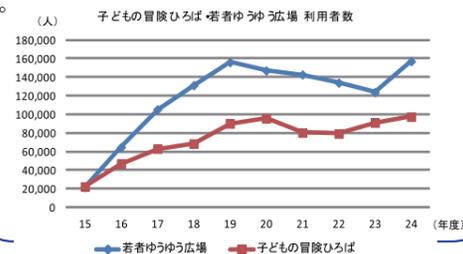
- ・マッチング件数(H25.11月末) 1,746件(累計)
- ・助成実績(H25.11月末) 261件(累計)

「子どもの冒険ひろば」

地域の大人が見守る中、空き地や公園などで子どもたちが”自らの責任で自由に遊べる”場として、現在、県内30箇所で開催・運営されており、その拠点ひろば中心に出前ひろばが県内527箇所(H25.11月現在)で実施されています。当本部では、平成15年度の事業開始以来、ひろば運営団体への助成はじめ、ひろばを支える人材(プレーリーダー等)の養成や情報誌の発行など、様々な取り組みを進めてきました。

「若者ゆうゆう広場」

中高生などの若者が学校帰りに気軽に立ち寄り、自由に過ごすことができる居場所として、公共施設のフリースペースや商店街の空き店舗を活用し、現在、県内47箇所で開催・運営されており、たまり場活動を核に音楽やダンスなどのサークル活動など、多彩な取り組みが行われています。当本部では、平成15年度の事業開始以来、ひろば運営団体への助成をはじめ、相談員の配置による相談・助言活動や情報誌の発行など、様々な支援策を講じてきました。



ひょうごユースケアネットほっとらいん相談

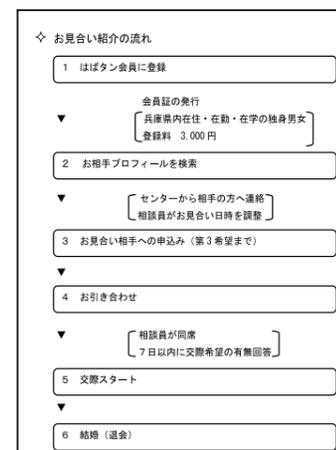
いじめ、不登校、ひきこもりなどの青少年問題に対応するため、「子ども若者総合相談員」を配置し、電話によりワンストップ相談を行っています。また、必要に応じてネットワークを活かした適切な相談機関等への引き継ぎを行っています。ほっとらいんに寄せられる相談件数は、開設以来増加の傾向にあります。

- ・開設日 月・水・金・土曜日 10:00～12:00、13:00～16:00
- ・078-977-7555(相談料は無料)
- ・相談員 3名(ひきこもり等の支援を行うNPOの専門員)



ひょうご出会いサポートセンター 「ひょうご縁結びプロジェクト」お見合い支援事業

少子化の要因の一つと考えられる「若者の未婚化・晩婚化」の背景には男女の出会いの場と機会の減少があげられています。



兵庫県では、「ひょうご出会いサポートセンター」を県青少年本部内に設置し、県内10か所に配置する「地域出会いサポートセンター」とともに、市町や団体、企業などと連携しながら男女の出会い・結婚支援を積極的に推進しています。そのような中、結婚を希望する独身男女に、1対1のお見合いの機会を提供する「ひょうご縁結びプロジェクト」事業では、このたび200組目の「はばタン会員」成婚カップルが誕生しました。

【成婚報告】 単位:組 (平成25年10月末現在)

神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	計
47	13	14	29	18	34	20	8	16	8	207

※お見合いの申し込みを受け付けたセンターで計上

県立神出学園 創立 20 周年記念式典開催

県立神出学園は、不登校等を経験した青少年の自立を支援する新しい学舎として、平成 6 年 10 月に開設されました。今年度創立 20 周年を迎え、11 月 3 日（日）に記念式典を開催しました。

本学園では、豊かな自然の中で、スタッフや仲間とふれあい、様々な体験を通じて一人一人が自己理解を深め、進路発見ができるよう支援をしており、この 20 年の間に修了した学園生は 513 名を数えます。

記念式典には、修了生や保護者の皆様をはじめ多くの来賓の方々のご臨席を賜り、第 I 部では、井戸敏三知事が主催者を代表してご挨拶をされ、また、記念の「書」として『未来へ翔びたつ友輩に』が披露されました。続いて、小林剛学園長の「神出学園 20 年と子どもたち」と題する記念講演が行われました。

第 II 部では、記念イベントとして、これまでの修了生の代表 3 名による「私にとっての神出学園」と題するそれぞれの学園への思いが語られ、参加者の大きな共感を得る感動的なイベントとなりました。

その後、映像「神出の宝物～神出学園 20 年を振り返って～」が場内に映し出され、神出学園設立当初からの懐かしい数え切れないほどの映像に、参加者の中にも学園の思い出に浸る方も多かったようです。

午後からの第 19 回学園祭では、昼食としてお越し頂いたほとんどの方に「振る舞いカレー」や「神出名物：焼き芋」を召し上がって頂き、好評を博しました。その後、各種模擬店、展示、バンド演奏や合唱「神出の僕ら」、「銅板レリーフ」披露など学園生全員がお客様に対していわゆる、「お・も・て・な・し！」の心で接して、大いに盛り上がった充実した 1 日となりました。

また、小林学園長が中心となり 20 年間にわたる当学園の不登校支援のノウハウを編集した記念誌「よみがえる子ども達」を作成し、不登校支援に当たっているの方々をはじめ関係各位に少しでもお役に立つことを願い、参加者全員に配付しました。

記念式典と学園祭との同時開催により大変な面もありましたが、学園生が主体となって事前準備をはじめ、当日には司会進行や照明係等一人ひとりが十分に役割を果たし、学園生たちにとっても充実した 1 日となったことはもちろん、今後の自信にもつながる非常に有意義な一大イベントとなりました。

県立神出学園では、平成 26 年 4 月生の募集を行います。詳しくは 078-965-1122

- ・対象者 中学校を卒業した県内在住の 23 歳未満の男女。
不登校等により進路発見が困難な状況にありながらも自分の生き方や進路を見つけたいという意欲を持ち、体験学習や寮での共同生活ができる人。
- ・募集人員 年間 35 名程度
- ・在籍期間 2 年以内（原則として全寮制）
- ・授業料 無料（ただし、給食費、教材費、寮費など実費が必要）
- ・願書受付 平成 26 年 1 月 6 日（月）～平成 26 年 2 月 10 日（月）
- ・入学時期 平成 26 年 4 月中旬



～ information ～

■県立山の学校

『平成 26 年度生徒募集』

県立山の学校は、平成 5 年 1 月、現在の宍粟市山崎町に開設された学校で、自然の中でさまざまな体験活動と寮での共同生活を通して、よりよい人間関係を育みながら、たくましく生きる力を培い、進路実現に向けて「元気・やる気・自信・笑顔」づくりを支援しています。

<募集要項>

対象者 義務教育を修了した者で、寮での共同生活や体験活動のできる 15 歳から 20 歳（平成 26 年 4 月 1 日現在）までの県内在住の男子
募集定員 20 名
修学期間 平成 26 年 4 月から 1 年間の全寮制
授業料 無料（ただし、教材費、寮費など別途実費が必要）
願書受付 平成 26 年 1 月 10 日（金）～1 月 24 日（金）
選考試験 平成 26 年 1 月 31 日（金）
合格発表 平成 26 年 2 月 3 日（月）
問合せ先：0790-62-8088（県立山の学校）

賛助会員を募集しています 賛助会員は税制面での優遇措置の対象になります。
ご寄付いただいた方の名簿をホームページに掲載しています。

次代を担う青少年を育成するために、ぜひ皆様のご協力をお寄せください。

【会費】（個人）1 口 2,000 円（法人）1 口 10,000 円

詳細は、兵庫県青少年本部、又は各地方青少年本部までお問い合わせください。

賛助会員カードを呈示すると、以下の施設で入館料・入園料割引等の特典を受けることができます。

- ◆施設：本人および同伴 1 名（神戸市立博物館は本人のみ）に団体割引料金適用
兵庫県立美術館 兵庫県立人と自然の博物館 兵庫県立考古博物館 兵庫県立歴史博物館
兵庫陶芸美術館 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター 神戸市立博物館 兵庫県庁 2 号館 B1 食堂「のじぎく」
- ◆兵庫県民会館レストラン・喫茶「ピッコロ」・理容室「今井」：本人のみに 10% 割引
- ◆県立兎和野高原野外教育センター レンタル料割引

〈地方青少年本部〉

阪神南青少年本部	06-6481-4634	西播磨青少年本部	0791-58-2131
阪神北青少年本部	0797-83-3138	但馬青少年本部	0796-26-3648
東播磨青少年本部	079-421-9105	丹波青少年本部	0795-72-5168
北播磨青少年本部	0795-42-9352	淡路青少年本部	0799-26-2048
中播磨青少年本部	079-281-9198	神戸事務局	078-382-8249

◆◆編集後記◆◆

座談会に出席いただいた三人の若者たち。それぞれの立場は違えど、自分の活動に自信を持ち、何事にも臆することなく前向きに取り組む姿勢に好感が持てました。彼らこそ、「今、期待される若者」として活躍が期待される若者といえるでしょう。（K）